

(課程博士)

## 論文の和文概要

所 属 :	総合生活 研究科	総合生活 専攻	博士後期 課程
学籍番号 :	0942203	申請学位 (専攻分野) :	博士 ( 学術 )
学生氏名 :	蛭間 基夫	指導教員名 :	中島明子 教授

論文題目	高齢者の住宅改善における理学療法士の役割と専門性
------	--------------------------

### 概要 (800 字程度)

本論文は高齢者の住宅改善における理学療法士 (PT) の役割や専門性を明らかにするもので、全 7 章で構成している。第 1 章「序 論」では研究の目的として①住宅改善に PT が介入する意義、②住宅改善に介入する PT の役割、③PT 固有の専門性の 3 点を明らかにすることとまとめている。第 2 章「訪問リハビリテーションにおける訪問看護師と理学療法士の関与の実態」では、訪問リハに対するニーズや PT 介入の難しさの要因を解明した。訪問看護師を対象としたアンケート調査 (対象は群馬県の看護師と准看護師 574 人で有効回答数 159 人 (回収率 27.7%)) を実施した (2010 年 8 月～10 月)。その結果、訪問看護師の PT の専門性への認識が不十分で、利用者と PT の橋渡しが困難なことが明らかになった。第 3 章「住宅改善を実施した高齢者の実態」では、住宅改善を行った高齢者の生活や工事箇所の状況を下記の二調査から検証した。調査①住宅改善を行った高齢者にアンケート調査 (高齢者 54 人、有効回答数 25 人 (回収率 46.3%)) を実施 (2009 年 7 月～2010 年 6 月) し、工事箇所の使用状況や満足度を検討した。調査②前調査で了承が得られた者 15 人の自宅を PT1 人が訪問 (2009 年 9 月～2010 年 7 月) し、実際の動作や使用方法を分析した。2 つの調査から PT の住宅改善介入の意義は自宅での動作分析や ADL の評価にあることが明らかになった。第 4 章「群馬県における理学療法士の住宅改善介入の実態」では、全国調査 (第 5 章) の前調査としてアンケートを実施した。群馬県 PT 協会の全 PT714 人を対象とし、住宅改善に対する意識や連携する専門職を明らかにした (回収数 268 人、回収率 37.4% で 2009 年 6 月～8 月)。その結果、PT は住宅改善介入時に動作分析や ADL の評価を重視すること、連携する専門職は介護支援専門員に次いで作業療法士 (OT) が多いことが明らかになった。第 5 章「住宅改善における理学療法士及び作業療法士の役割」では、住宅改善介入時の PT と OT の役割やその意識、各専門性を検討するための調査を行った。日本 PT 協会及び日本 OT 協会に所属する PT 及び OT から無作為に PT3,795 人、OT2,094 人を抽出し、アンケートを実施した。回答数 PT1,529 人 (回収率 40.3%)、OT785 人 (回収率 37.5%) であった (2010 年 6 月～8 月)。その結果、介入時の PT と OT の役割に差異はないが、PT は移動や移乗、OT は self-care や IADL を動作分析の専門領域となっていることが明らかになった。第 6 章「デンマークにおける住宅改善での理学療法士及び作業療法士の役割と専門性」では、海外先進例となるデンマークで訪問調査 (2011 年 6 月 27 日～6 月 30 日) を行った。調査では住宅改善支援制度の実態とともに、PT、OT の歴史や養成制度等を明らかにした。訪問先は PT、OT の養成校、福祉器具センター、住宅改善の実施例である。その結果、デンマークでは PT、OT は異なる過程で発展し、専門性に明確な区分があり、その専門性に基づき OT が住宅改善で中心的な専門職となっていることが明らかになった。第 7 章「結 論」では以下の 3 点をまとめた。①PT の住宅改善介入の意義は「動作分析や ADL の評価」にある、②その役割は「動作分析や ADL の評価」と「在宅生活での問題点の発見」であり、③その際の PT の専門性は「移乗、移動動作の分析」である。ただし、他職種との連携のあり方は今後の研究課題となった。